

## 「台湾研修について」

浅野 泰成（信太高校2年生）

### 1：台湾研修に行くにあたって

私がこの台湾研修の目標として掲げたのは自分の質問したことや感じたことをレポートにまとめるということだ。レポートを作成するにあたって私は以前から南出さんにお借りしていた「すべては志からはじまる」という本を参考にすることにした。この本は南出さんの師匠にあたる林英臣先生が書かれた本で名前にあるように志を立てるための本で何か研修の刺激になるのではないかと思いこの本を参考に研修に臨んだ。

### 2：台湾での出来事 夜市

私が台湾に着いて最初に触れた文化が夜市だった。夜には屋台形式で色々な食べ物が売られており例として鳥の頭が焼かれている物や漢方漬けされている鳥の足など日本では中々見れない文化からチャーハンやタピオカのドリンクなど日本でもよく見られるものもあった。夜市のような文化は私の身近にはなくどこか神秘的で外国に来たのだと感じられ私が普段参加しているイベントより人の数や屋台の数が多いためか明るく色づいているように思いさくらまつりやキャンドルナイトにも夜市と同じかそれ以上に屋台や人が増えれば今まで以上に明るいものになるのではないかと感じた。

### ウーライ

その次の朝に私達が向かったのはタイヤル族という部族が住んでいるウーライという場所でした。タイヤル族とは元々戦闘能力が高く日本統治時代に最後まで日本と戦った非常に勇敢で活発な部族だったが中国が意図的に膨大な金を与え働かなくても生きていける環境を創りギャンブルや風俗などの娯楽で溺れさせどんどん堕落していった部族で今ウーライにいるほとんどの人が働いていない状況だった。その状況に誰一人と違和感を持っていない事には高校生の私でも危機感というものを感じました。

その後原住民の方に大東亜戦争に日本人として戦った人が祀られているという場所に案内していただきました。大東亜戦争とは今でいう太平洋戦争のことで、敗戦後GHQによって軍国主義に関連があるという理由で太平洋戦争に名前を変えられた戦争だ。その戦争で勇敢に戦い戦死した数名の名前が石碑に書かれており本来なら戦った全員の名前を書きたかったところを中国の圧力によって数名の名前のみ書くことを許され今に至った。その後も原住民の方の話を聞いて中国がいかにかウーライの人々を精神から崩していったことが分かり、私は武力で制するより残酷なことだと感じました。知らず知らずのうち人の意識や歴史が変わっていくことの恐怖を痛感し、それと同時に自分達は日本の歴史や地元の風習を正しい解釈で私達より後の世代に伝えていくことの必要性が理解できた良い機会でした。

### 二二八記念館

台湾研修最終日。二二八記念館にて台湾の人の日本への感情や当時の日本についてお話しをお伺いできる機会がありました。記念館の方によると「当時、日本は戦争を避けていて本当は攻撃しなくなかったが米国による策略で真珠湾を攻撃させられた」や「日本は世界平和のために戦争をした」などGHQによって間違った意味で教えられている歴史についてのお話がきけました。その他にも日本統治時代には多少の差別はあったもののたくさんの物を作ってくれた日本には非常に感謝しているとおっしゃっていました。私は今まで日本統治時代の台湾の人たちは日本を心の底から恨んでいると思っていました。しかし、その解釈は違い日本人より日本を愛していて、日本人より日本を深く考えている。そのことを受け私は非常に感動しました。二二八記念館でのお話しを受け日本という国について一度深く考える時間が今この時期にできたのは、今後なにかに繋がる良い機会でした。

### 3. 台湾研修を終えて

#### 学習した事・感じた事

台湾研修を終えて一番学べたのは教育の重要性。例えば間違った知識を学習してもその知識を正す人がいなければその知識はその人にとって正しい知識になってしまう。私が今回研修を振り返って驚いたり疑問に思うことが多かったのは今まで学習してきた事と違う知識が多かったからだと思います。私は教育次第で人の考えや認識までも変わるということが一番今回の研修で感じたことであり学んだことです。

#### 今後の人生にどう活かすか

正直今は何に役に立つかは分かりませんが、幼児教育科にすすむ私にとって今回学べた教育の重要性というのは必ずどこかに役に立つと思います。今回学べた事を自分だけのものにするのではなく色々な方面の色々な方に伝えていきたいと思っています。